

建設省関東地方建設局大宮国道工事事務所

正会員

福井 照

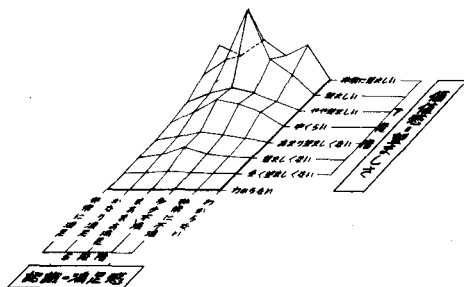
八十島 義之助

近年、道路建設等に伴い住民の反対運動が頻発し土木にとりて住民の問題が大きくクローズアップされてきた。これは、計画者が住民から要望や価値観を受取ることで、重視されているからである。そこで、その情報のパスを確立せねばならないという問題意識から、都市環境に対する住民の認識と価値観のクロス分析に約を絞り、研究を進めた。作業は、住民の認識と価値観の構造の仮説をたて、それに対応した住民の意識分布の構造も仮説し、その仮説を検証するために実際にアンケート調査を行い、実測値との比較を行った。認識と価値観の構造の仮説は、環境と情報に対する意識内部の動きを、認識と価値観と価値基準に照準をあてて考え、都市環境という概念が、いかに形成されるかを考察したものである。意識分布の構造に対する仮説は、認識と価値観の構造に対応し、意識の素の強弱の組み合わせにより考察された。

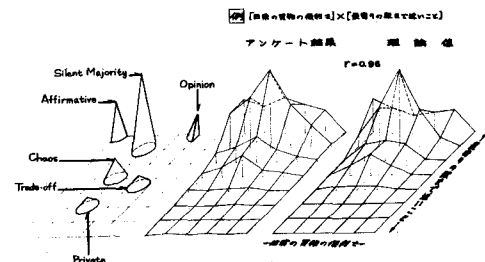
そして、意識分布の構造は、6つの集団の和で表現される。その6つの集団とは、意見の強いオピニオン、現状肯定の意見の強いアファーマティブ、普遍的価値観を持つサイレントマジョリティ、認識のないカオス、特殊の価値観を持つプライベート、マイナス側面を認識したトレード・オフである。(図1,2参照) アンケート調査の概要は、対象地域は、東京都成田地区(板橋、練馬、豊島区)で、面積約20km²、人口約30万人であり、サンプル数1000有効回答者数741、個別訪問面接採取法により得た。

かなり大規模なアンケートである。アンケート実測値と仮説による理論値との比較の結果、仮説は検証された。次のように考察された。即ち、3つのパターンに意識分布の構造が分類できる。オ-のパターンは、その環境要因に対するマイナス側面が意識されないクロスとしてまとめられ(図2)のような構造。オ2のパターンは、マイナス側面の意識され易いクロスとしてまとめられ(図3)のような構造。オ3のパターンは、土木計画としては、現在問題になっていない環境要因のクロスとしてまとめられた。オ-、オ2のパターンについて、実測値と理論値とが、よく適合し仮説が、検証された。以上の結果、計画者は住民の要望価値観を吸収する必要がある。その要望価値観は多様性を有しており、そのことをふまえた上で計画者は計画の実体と予測についてさらに詳しい説明を住民にしなければならぬということが考察された。

クロス集計の透視図表現



(PATTERN-I)



(PATTERN-II)

